作品展に向けて

令和7年11月 14 日　作品展実行委員会

いよいよ来週に作品展を開催いたします。作品展に向けて、児童は一所懸命に自分の作品と向き合いました。どの子も自分の思いをもって作品づくりに取り組んでいます。当日は完成した作品が体育館に飾られますが、今回のお便りでその制作過程について知っていただき、より子供たちの頑張りを感じていただければ幸いです。

ふたつのまるから　うまれたよ（平面作品）　1年生

さあ、黄色のクレパスを持って、画用紙に大きな丸を2つ描きます。その2つの、丸を猫に変身させましょう。1 つの丸を頭、もう 1 つの丸が体になるようにして･･･、耳やしっぽ、足を描きたすと･･･ なんと、かわいい猫がたくさんうまれました。クレパスで丁寧に塗り、自分だけの特別な猫ができあがりました。

のってみたいな　いきたいな（平面作品）

「何に乗って、どんなところに行こうかな。」クラスの友達とおしゃべりしながら考えました。本当には無いものや場所も、形や色で表すことができると分かると、想像がさらに広がりました。乗りたいもの、乗る人をクレパスで描いてはさみで慎重に切り抜きました。行きたい場所に笑顔で向かっています。

わたしは、花の電車。
ぼくは、力持ちの妖怪に乗りたいな。

この辺に乗り物を貼ろう。
お花畑に行きたいな。

ゆめの　いろどりべんとう(立体作品)

「こんなお弁当が食べたい!」子どもたちの思いが込められたお弁当です。紙粘土に色を混ぜてこねることを何度も繰り返し、思うような色の粘土作りに挑戦しました。好きなおかずや好きな主食だけでなく、彩りやバランスも考えて、わいわいにぎやかに作りました。

すごーい、紙粘土がこんなにのびるよ。

わぁ、絵の具を入れてこねると、だんだん色がついておもしろいな。

ふしぎな　いきもの　あらわれた（平面作品）

２年生

国語で学んだ「スイミー」。スイミーが海で見た生きものってどんな生きものか、その生きものはどんな海で暮らしているか想像しました。板の片面に生きものの絵を描いたあと、自由に模様を描き足しました。もう片面には、背景を描きました。生きものと背景を別々にスチレン版画に彫って刷り、貼り合わせてつくりました。

海の中にいるふしぎな生きものと 背景をかいたよ。

均等にインクをつけて刷ったよ。

とろとろえのぐで（平面作品）

まず、好きな色を選び、自分のとろとろ絵の具をつくることを楽しみました。次に、とろとろ絵の具を使って、いろいろな表し方を試しながら、生まれてくる形や色、感触などの感じを基に表したいことを考え、工夫して表しました。作った絵の具を手や指で塗り広げる行為を楽しんでいました。

うわー、 きれいな色ができたよ。

手や指を使って描くの楽しいね。

まほうのとり(立体作品)

粘土に絵の具を混ぜ合わせ、きれいな色の粘土をつくりました。どの場所に何の色を使うか考えながら、土台のペットボトルに、様々な色の粘土をつけました。色画用紙、モール、ビーズなどを使って、飾りつけをしました。

絵の具をまぜて、きれいな色ができたよ。

どんな鳥にしようか、考えたよ。

３年生

いろいろ　うつして(平面作品)

版になりそうな緩衝材や波段ボールなどいろいろな材料の感じを生かして版をつくりました。どんな色がいいか、版をどう使うといいか考えながら紙に刷りました。自分でつくった色画用紙に、刷った版画を切って貼りました。

様子を思い浮かべながら色画用紙をつくったよ。

自分で作った版を使って、
好きな色で刷ってみたよ。

むしむしワールド(平面作品)

理科の学習で昆虫の体のつくりの学習をしました。身の回りにいる昆虫を図鑑やタブレットで調べたあと、ガムテープを使って、昆虫のからだをつくりました。昆虫のからだの中にカラーペンを使って、もようをかきました。

ガムテープを小さく切ってペタペタ貼っていくよ。

１つ１つの部屋にきれいな模様を描いたよ。

わくわくアイランド(立体作品)

空き容器を組み合わせて島の土台をつくりました。布を液体粘土に浸し、土台にかぶせ、乾燥させた後、絵の具で色を塗りました。夏休み中に冒険の内容が含まれる本をたくさん読み、どんな冒険の島にしようかイメージしながら、粘土でその島にあるものをつくりました。

布を液体粘土にひたして、容器に巻いてみたよ。

夏休みに読んだ本からイメージして島をつくったよ。

絵の具でゆめもよう(平面作品)

4年生

スパッタリングや吹き流しといった絵の具を活用したモダンテクニックを学習した後に、できた色紙で動物を表しました。今までに使ったことのない絵の具の技法に生き生きと取り組み、ビー玉や歯ブラシと言った身近なものと絵の具を組み合わせる面白さを感じ取っていました。色や模様を生かして自分の世界をつくりあげています。

顔のつくりを調べながら
細かくつくったよ。

模様を生かして
好きな動物の形にしたよ。

ほりん星人マンション(平面作品)

初めて使う彫刻刀で板を彫り、宇宙人のマンションを表しました。はじめは緊張している様子でしたが、すぐに彫刻刀を使いこなすことができました。丸刀・三角刀・平刀を使い分け、線の細さや深さに工夫しながら彫りました。「どんな宇宙人が住んでいるのだろう。」「マンションの周りには何があるかな。」と、想像を膨らましながら取り組みました。

細い線は三角刀で、太い線は丸刀で彫ったよ。

刷ったあと、白い部分を絵の具で塗ったよ。

ひみつのすみか(立体作品)

のこぎりで角材や板材を切った後、土台の上に並べて自分だけの「ひみつのすみか」を表しました。大きな面は絵の具で色を塗り、細かい部分はポスカで模様や文字を書き足しました。自分で集めた枝や葉も組み合わせて、個性豊かな作品を完成させました。

のこぎりで、角材や板材をいっぱい切ったよ。
初めて使ったのこぎりも、とても上達しました！

完成形をイメージしながら、色をぬったよ。

気になる木(平面作品)

５年生

木炭で真っ黒に塗りつぶした画用紙を消しゴムで消しながら木を描きました。描いたり消したりを繰り返しながら木の形を考え、最後にパステルとチョークで色を塗りました。「こんな木があったらいいな。」と、想像を膨らませながら形や色を表しています。

土の中をイメージして
画用紙を塗ったよ。
画用紙も手も
真っ黒になりました！

木炭の黒と
消しゴムで消した時の白、
パステルのカラフルな
色を組み合わせたよ。

あつまれ！動物の群れ(平面作品)

彫って、刷って、彫って、刷ってと同じ工程を繰り返す彫り進み版画の技法で動物をつくり、画用紙に貼り合わせて群れを表現しました。刷り重ねた時の線や色の重なりを意識して板を彫刻刀で彫っています。何の群れなのか、何をしている群れなのか、動物たちの物語を考えながらつくりました。

工程が難しい技法だったけれど、
刷った動物を群れにするのは
面白いな。どんな並べ方にしようかな。

ワイヤーワールド(立体作品)

針金を様々な形につくり変えながら、思いついたことを作品に表しました。「いいな」と感じた形やバランスを、手とペンチで慎重に作品に残しています。アルミホイルも使って、線と面のバランスを意識しながら完成させました。材料の使い方からテーマまで、自分で考えて工夫することができました。

線の形を確認しながら
作品を表したよ。

針金は柔らかいから形を
簡単に変えられるね。

私の大切な風景(平面作品)

6年生

たくさんの思い出がある上ノ原小学校での日々。普段は何気なく過ごしている学校の風景を切り取って絵に描きました。なんだか落ち着く場所、友達と楽しく遊んだ場所、好きな授業を受けた場所…6年生は思いを込めて丁寧に絵を描きました。

いつもと違う視点で見ると、違う場所みたいだね。

細かいところはペン、色をはっきりさせたいところは絵の具にしよう。

版で広がる私の思い(平面作品)

彫り進み版画の技法に加えて、板を3枚に切り分けることで4色のインクを使った版画を刷りあげました。版画のデザイン・切り分け方・色の組み合わせも6年生自身が構成しています。複雑な工程を経て完成させた、最上級生ならではの版画です。最後は色画用紙に貼り合わせ、台紙への装飾も施しました。

彫った部分は溝になって、インクがつかなくなるんだね。

2色使ってグラデーションにしてみよう。

1枚の板から(立体作品)

14×90cmの長方形の板を使って、自分がつくってみたいもの・家に持ち帰って使ってみたいものをデザインしてつくりました。定規で長さを測ることからスタートし、最後には絵の具やニスを塗っています。6年間の木工作の技能の集大成として、機能性と造形美を追求して完成させました。

書いた線に合わせてのこぎりを引いたよ。

思い通りの色になるまで絵の具を混ぜたよ。

みんなでつくる 秋の彩り(共同作品)

全校児童

1～6年生一人一人が布を染め、体育館の天井を飾りつけました。各学年が使用する色やロープの並べ方は6年生の実行委員が検討して全校児童に提案しています。全員の布が並ぶことで、体育館が芸術の秋色に染まりました。

どんな模様に染まるかな？楽しみだな。

畳んで染めた布を広げると、素敵な模様ができたよ！

お読みいただきありがとうございました。子供たちは日々の図画工作科の学習の中で心も体も働かせ、試行錯誤し、自分らしく作品を表現しています。現在は、名札を書いたり作品の最終チェックをしたりしながら、作品を展示する準備を進めています。作品展をご覧いただいた後は、ご家庭でもその制作秘話に耳を傾けてみてください。